

3. VRを活用した普天間飛行場跡地利用における将来イメージの制作

(1) VR（バーチャルリアリティ）の制作

(1) - 1 VR制作の意義と目的

(1) - 1 - 1 意義と目的

跡地利用の全体的なレビュー、県民、地権者、関係機関等とのイメージ共有並びに意見集約、行政協議や各種プレゼンテーションなど、本計画の具体化を効率的・継続的に支援することを目的とし、跡地利用計画のまちづくり将来イメージを中心とした汎用三次元デジタル空間である「多機能バーチャルリアリティ（VR）」コンテンツを制作する。

(1) - 1 - 2 VR活用方法

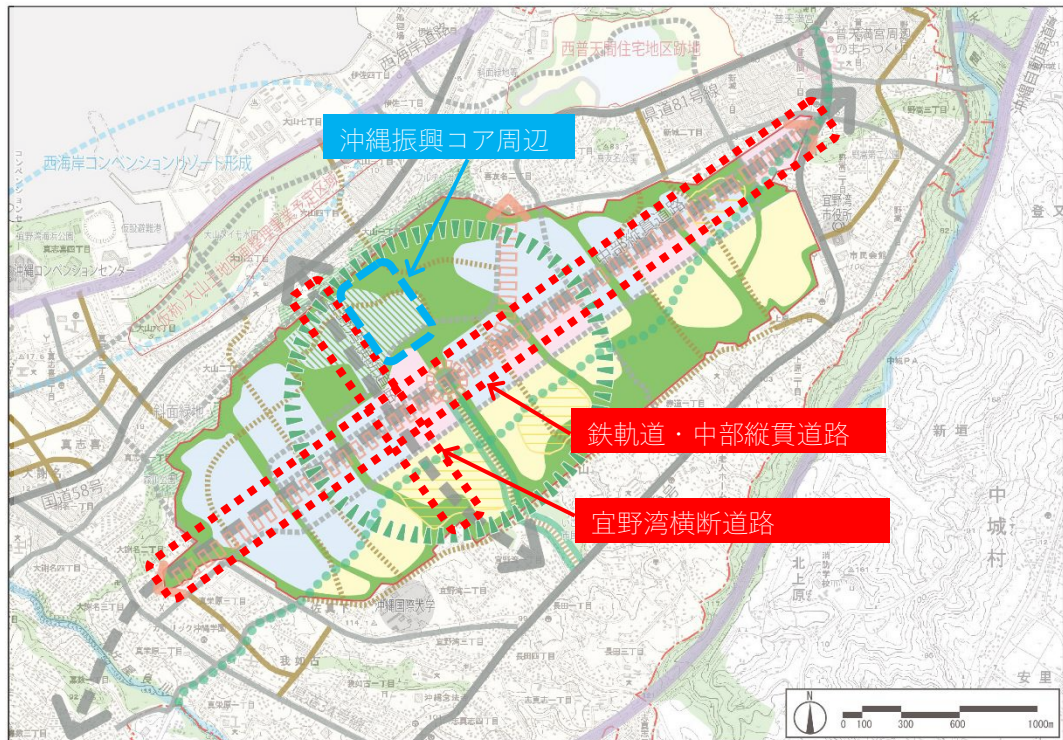
柔軟に更新できるVRの特徴を踏まえ、普天間飛行場跡地利用計画においてのVR活用方法を以下に整理する。

- ・プロジェクト関係者間でのイメージ共有
- ・市民や地権者との合意形成
- ・プロジェクトにおける効果的な運用・計画上のマネジメントに活用

(1) - 1 - 3 今年度のVR制作(更新)のねらい

過年度制作したVRをベースに、以下の視点で更新する。

- ・鉄軌道、広域幹線道路（中部縦貫道路・宜野湾横断道路）のパターンを複数制作し、鉄軌道・広域幹線道路のクリティカルポイントを示すことで、計画の具体化に向けた議論のたたき台とする。
- ・みどりの中のまちづくりのシンボルとなる沖縄振興コア周辺において、「沖縄振興の舞台となる『みどりの中のまちづくり』」「環境の豊かさが持続するまちづくり」を可視化し、そのイメージを県民・市民・地権者等で共有する。



図IV－8 VR更新位置

(1) - 2 鉄軌道・広域幹線道路のVR

(1) - 2 - 1 鉄軌道・広域幹線道路のVR制作の考え方

本年度のVRでは、掘割式・高架式の鉄軌道の構造の変化により、中部縦貫道路と宜野湾横断道路との交差形状、周辺街区への影響等を可視化し、公共交通ネットワークのクリティカルポイントを比較できるように制作した。

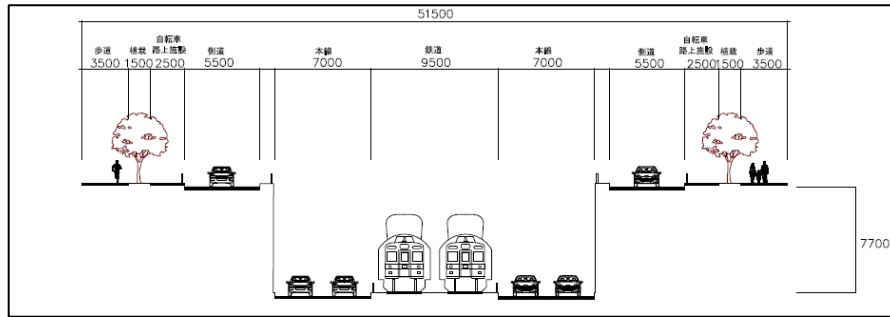
(1) - 2 - 2 鉄軌道・広域幹線道路のVR制作の留意事項

過年度の検討及び沖縄県検討等を踏まえ、鉄軌道・広域幹線道路のVR制作上の留意事項を以下に整理した。

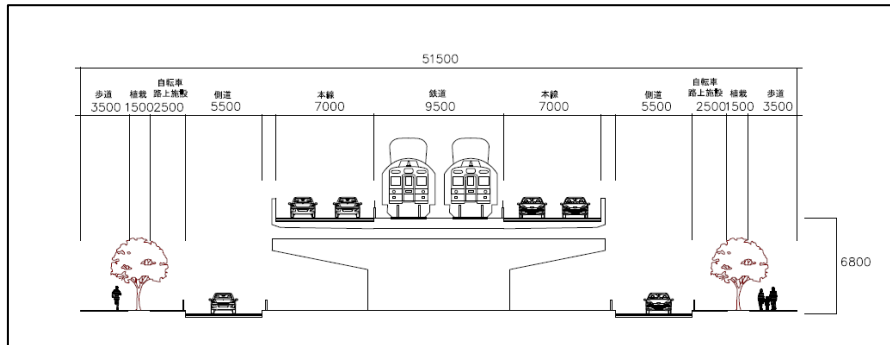
- ・鉄軌道、広域幹線道路（中部縦貫道路・宜野湾横断道路）の交差部等、鉄軌道の構造の差異による影響を明確化し、比較可能なものとする。
- ・鉄軌道と中部縦貫道路は一体型
- ・中部縦貫道路は、掘割式と高架式の2パターンを想定
- ・宜野湾横断道路は、平面式

(1) - 2 - 3 鉄軌道・広域幹線道路のVRの活用方法

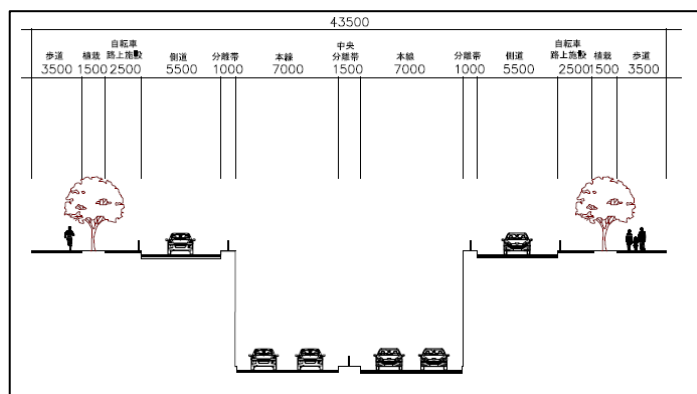
鉄軌道・中部縦貫道路を一体型とし、掘割式・高架式の2案VRを制作することで、有識者検討会議や関係部局等との調整・イメージ共有を図るツールとして活用する。



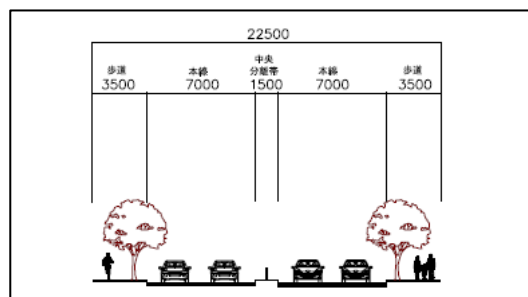
鉄軌道・中部縦貫道路標準横断面図（掘割式）



鉄軌道・中部縦貫道路標準横断面図（高架式）



中部縦貫道路標準横断面図（掘割式-鉄道分離区間）



宜野湾横断道路標準横断面図

図IV-9 鉄軌道・広域幹線道路標準横断面図



掘割式-1



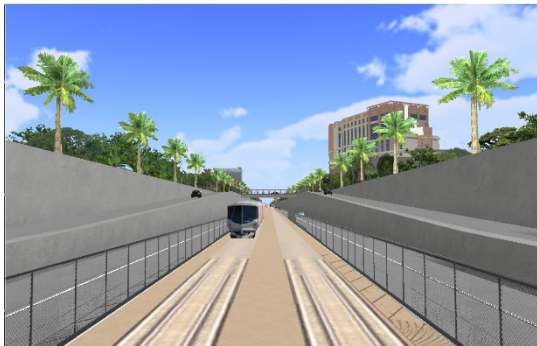
高架式-1



掘割式-2



高架式-2



掘割式-3



高架式-3



掘割式-4



高架式-4

図IV-10 鉄軌道・広域幹線道路イメージ図

(1) - 3 沖縄振興コア周辺のVR

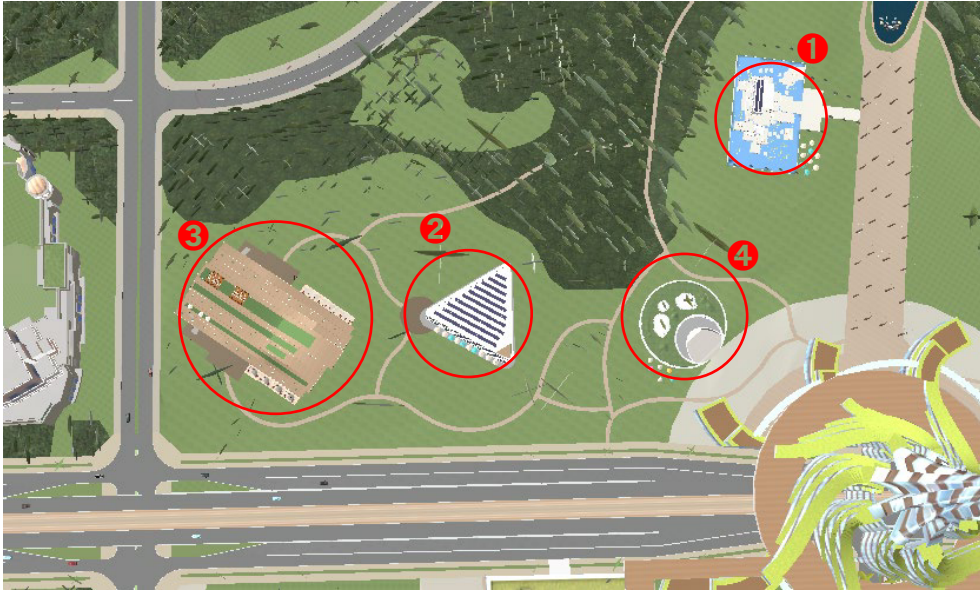
(1) - 3 - 1 沖縄振興コア周辺のVR制作の考え方

沖縄振興コアは、目指すべき跡地の将来像「世界に誇れる優れた環境の創造 ～みどり（歴史・緑・地形・水）の中のまちづくり～」を象徴する沖縄振興に向けたシンボル空間である。沖縄振興コア周辺のVRは、跡地の将来像を具現化するための揺るぎないまちづくりの方向性を踏まえ、民有地におけるみどりのあり方やシマの基層の活用方法、最先端技術を活用した建物のあり方等の実現イメージを体現する視点で制作した。

(1) - 3 - 2 沖縄振興コア周辺のVR制作の留意事項

沖縄振興コア周辺のVR制作上の留意事項は以下のとおりである。

- ①環境の豊かさの持続イメージ ～自然環境資源(水)を活用した省エネルギー化～
 - ・ 宜野湾の特徴である水を活用してその効果により断熱し、建物内の温度を一定にする他、周辺との温度差を生じさせ、温度差による風を作り出す。
 - ・ 屋根に設置した太陽光パネルで作成したエネルギーにより水を汲み上げ、建物の壁面や周辺で活用。
 - ・ 汲み上げた地下水は、駅北側に位置する池への流入（地表では小川を形成）を想定し、池周辺に配置する。
 - ・ 用途は、カフェを併設した資料館と仮定。
- ②最先端技術の導入イメージ
 - ～再生可能エネルギー(太陽光)を活用した省エネルギー化～
 - ・ 再生可能エネルギーを積極的に利用する「低炭素なまち」を印象付ける。
 - ・ 太陽光パネルを建物の屋根・外壁に多用し、太陽の位置によってパネルの向きが変化することで、効率的な太陽光発電が可能。
 - ・ 災害時等の際に優先的にエネルギー供給が必要な公共施設が集積する駅周辺エリアに近接した場所に配置する。
 - ・ 用途は、エネルギー研究施設と仮定。
- ③アジア蒸暑地域のモデルとなる省エネルギー(低炭素)型建物イメージ
 - ～日陰の創出・屋上緑化による断熱効率の向上～
 - ・ 強い日差しを遮蔽するための庇を設け、かつ屋上緑化とすることで、沖縄の環境に配慮したデザイン。
 - ・ アリーナ等の集客施設に隣接した場所に配置し、集客の相乗効果を図る。
 - ・ 用途は、ショッピングモールと仮定。
- ④機能融合による付加価値向上イメージ ～歴史資源(鍾乳洞)と緑地空間の融合～
 - ・ 宜野湾の特徴である地下の鍾乳洞へ続き、鍾乳洞を観光資源として活用。
 - ・ 屋根部分を緑化することで公園としての利用を可能とし、かつ建物を貫通するように樹木を配置することで、建物と緑の融合を印象づける。
 - ・ 観光施設であるため、多くの人が集まる駅周辺に配置する。
 - ・ 用途は、観光施設を仮定。



図IV-11 沖縄振興コア周辺平面図

(1) - 3 - 3 沖縄振興コア周辺のVRの活用方法

民有地でのみどりの活用や最新技術を導入した建物のあり方をVRで可視化し、PVに活用することにより、「沖縄振興の舞台となる『みどりの中のまちづくり』」「環境の豊かさが持続するまちづくり」を象徴的に示し、県民・市民・地権者等とイメージの共有を図る。

①環境の豊かさの持続イメージ ～自然環境資源(水)を活用した省エネルギー化～



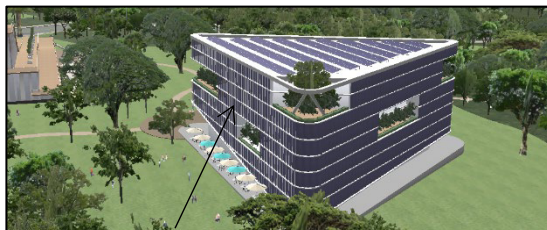
屋根に太陽光パネルを設置し、自然エネルギーを利用して地下水を汲み上げる



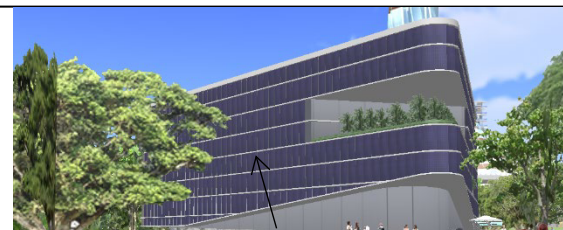
親水空間形成や建物周辺や建物内の温度を下げるために、地下水を活用

②最先端技術の導入イメージ

～再生可能エネルギー(太陽光)を活用した省エネルギー化～



太陽光パネルを屋根・外壁全面に配置し、太陽の方向によってパネルの向きが変化することで、効率的に太陽光発電、災害時には周辺の公共施設に優先的にエネルギーを供給



③アジア蒸暑地域のモデルとなる省エネルギー(低炭素)型建物イメージ

～日陰の創出・屋上緑化による断熱効率の向上～



建物の屋上部分をウッドデッキ・緑地とすることで、にぎわい空間の創出・建物の断熱



強い日差しを遮蔽する庇を設け、沖縄の環境に配慮したデザイン

④機能融合による付加価値向上イメージ ～歴史資源(鍾乳洞)と緑地空間の融合～

屋上緑化により、公園としての利用が可能



建物を貫通するように樹木が植え、建物と緑の融合をイメージ



普天間の特徴である鍾乳洞をイメージした建物で、地下空間へと繋がる

図IV-12 沖縄振興コア周辺イメージ図

(2) P V (プロモーションビデオ) の制作

(2) - 1 P V制作の意義と目的

(2) - 1 - 1 意義と目的

普天間飛行場跡地利用における将来イメージの検討内容をプロモーションビデオとして制作し、地権者、市民、県民に向けて情報発信を行い、跡地利用の気運醸成ツールとして活用するとともに意見聴取ツールとしても活用することを目的とする。

(2) - 1 - 2 P Vの活用方法

P Vは多くの地権者、市民、県民へ情報発信することが重要と考え、地元の字ごとの郷友会、地主会、普天間飛行場の跡地利用を考える若手の会、ねたてのまちベースミーティングなど積極的に活動されている団体の会合等で見ていただく機会を設けて、意見を聴取する。また、県のホームページ内の動画チャンネルに格納することで、さらに広く地権者、市民、県民のみなさんに見ていただくとともに、計画案づくりに関心を持ってもらえるようにする。

(2) - 1 - 3 今年度のP V制作のねらい

以下の視点でP Vを制作する。

- ・「全体計画の中間取りまとめ」以降の配置方針・配置方針図の更新に至る検討経過と、「揺るぎないまちづくりの方向性」を示すことで、世界に誇れる付加価値の高いまちを創造することを伝える。
- ・「揺るぎないまちづくりの方向性」の要点である「シマの基層を最大限活用すること」「公共民間の枠を超えて、まち全体で緑を創造すること」「最先端技術を導入したまちづくりを行うこと」を示す。

(2) - 2 P V制作の考え方

(2) - 2 - 1 検討経過

○アジアにおける普天間飛行場跡地の立地特性や先行返還地等の周辺動向、県民・市民の意見等を踏まえた検討



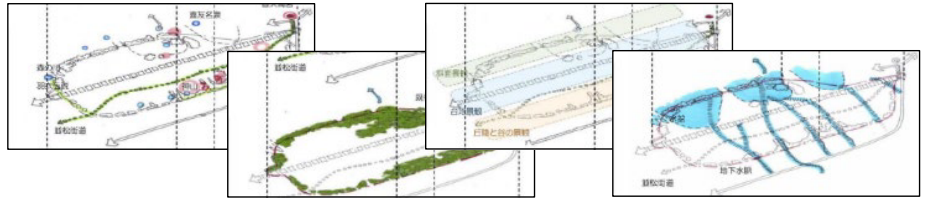
○土地利用ゾーン・緑地空間・交通網の配置方針を更新



(2) - 2 - 2 揺るぎないまちづくりの方向性

○跡地の自然環境

(緑・地形・水)と
歴史資源を最大限に
活用したまちづくり



○公共・民間枠を超えて、まち全体で緑・オープンスペースを創造



○公民連携手法や最先端技術を導入し、環境の豊かさが持続するまちづくりを推進



普天間飛行場の価値や先進性が高まり、質の高い暮らしが実現可能なまちづくりを推進する。

(2) - 2 - 3 映像の構成

No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
1. プロローグ				
01	5秒/ 5秒		はいたいぐすーよー ちゅーうがなびら	
02	22秒/ 27秒	文明の進化と弊害	人類は、地球の資源をベースにして、長い時間をかけて進化し、社会を築いてきました。 工業化社会になってからは、進化のスピードは急激に速まります。 わずか200年の間に、私たちの生活は便利になり、富と繁栄を築いてきましたが	
03	13秒/ 40秒		同時に 自然破壊、温室効果ガス排出、気候変動など 地球を脅かす危機的な環境問題を抱えることになりました。	
04	6秒/ 46秒	新しい時代に向けての視座	これからの社会はどこに進めばいいのでしょうか。	
05	11秒/ 57秒		自然の力を活かし、持続的に共生するためにはどうしたらいいか、 人々が平和で快適に生きるためにはどうすればいいか、	



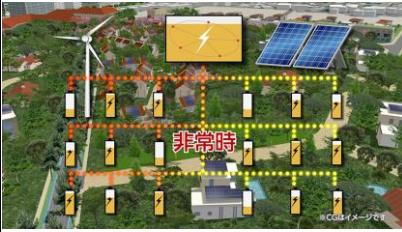


No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
06	6秒/ 1分3秒		今、世界中で考え、動き出しています。	
2. 普天間飛行場跡地利用計画づくりの変遷				
07	13秒/ 1分16秒	計画づくりの経緯	このような時代に向かって進んでいく、転換期に 普天間飛行場跡地だからこそできるまちづくりとは、どのようなことでしょうか。	
08	10秒/ 1分26秒		2013年に 普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ」を公表しました。	
09	24秒/ 1分50秒	シマの基層がベース	その検討のなかで、 ・長い年月をかけて造られてきた地形や地質 ・沖縄の気候がもたらした木々の生命力や地下の水脈 ・この自然環境の中で育まれた文化や暮らしの歴史 これらを活かすことをベースに	
10	30秒/ 2分20秒	中間取りまとめのポイント	・沖縄中南部を南北につなぐ交通網 ・宜野湾市を東西につなぐ道路 ・人々が集まりにぎわうゾーン ・産業や経済を活性化させるゾーン ・沖縄の文化と気候を活かし周辺のまちとつながる居住ゾーン これらを今残っている緑と新たに創り出す緑で繋ぎ合わせ	

No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
11	10 秒/ 2 分 30 秒		普天間飛行場跡地が沖縄の中心になることをめざして、計画づくりをはじめています。	
12	12 秒/ 2 分 42 秒		その後も、 県民・市民・地権者の皆さんと 意見交換を続け、随時、計画を更新 しています。	
13	5 秒/ 2 分 47 秒	更新の過程 アジアへの広がり	沖縄の玄関口とのアクセスを活かし 普天間飛行場跡地が、	
14	10 秒/ 2 分 57 秒		アジア全体の活性化をうながす経済 発展の中心になるよう検討を進めて います。	
15	9 秒/ 3 分 06 秒	アクセス	県内はもとより、 世界中からここに集まる人たちが、 活動しやすい快適なまちになるよう に、	
16	6 秒/ 3 分 12 秒		幹線道路や鉄軌道の検討が進められ ています。	

No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
17	16 秒/ 3 分 28 秒	土地利用	<p>「全体計画の中間取りまとめ」では、使い方で3つに分けていたゾーンの考え方をさらに深め、</p> <p>振興拠点ゾーンにより具体的な拠点を検討しています。</p>	
18	12 秒/ 3 分 40 秒		<p>西普天間住宅地区跡地で進んでいる「沖縄健康医療拠点」などの周辺とのつながりをもたせた学術研究拠点、</p>	
19	14 秒/ 3 分 54 秒		<p>アクセスのよさ、公園や緑、都市機能も合わせ持ち、オフィスやホテルなど、沖縄県の新たな業務拠点となる国際ビジネス拠点、</p>	
20	8 秒/ 4 分 02 秒		<p>駅周辺や跡地周辺を含めた防災を支援する広域行政機能バックアップ拠点</p>	
21	13 秒/ 4 分 15 秒	沖縄振興コア	<p>また、みどりの中のまちづくりのシンボルとして、沖縄振興の拠点となる【沖縄振興コア】の検討も進めています。</p>	

No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
22	11 秒/ 4 分 26 秒		ここで働き、暮らし、訪れる人たちが、多様なライフスタイルを選べるまちをイメージしてみました。	
23	18 秒/ 4 分 44 秒	コミュニティへの配慮	跡地に残る歴史や文化を伝え、沖縄らしいコミュニティづくりや地域一帯の防災も考えた緑のネットワークでつながる公園や空間に多様な人々が集まるまちをイメージしています。	
3. 「みどりの中のまちづくり」				
24	16 秒/ 5 分 00 秒	考え方	こうした計画づくりの中でも、最も期待されているのがみんなで、まち全体を、つくり、育てていく「みどりの中のまちづくり」です。	
25	15 秒/ 5 分 15 秒	緑	蒸し暑い夏は、木陰をつくり、涼しい風を吹かせ、 冬には、吹き上げる風から生活を守ってきた沖縄の木々。	
26	15 秒/ 5 分 30 秒	水	琉球石灰岩層で濾過された雨(あま)水が、地下を流れ、生活用水や集いの場・祈りの場として、地域の暮らしと心を支えてきた湧き水。	

No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
27	15秒/ 5分45秒	シマの基層と最先端技術の融合	このように琉球王国の時代のまちづくりでも巧みに取り入れられてきた「緑と水と歴史を活かしたまち」の考え方を、最先端技術と組み合わせながら、	
28	8秒/ 5分53秒		持続可能なまちづくりにつなげていくのが「みどりの中のまちづくり」です。	
29	15秒/ 6分08秒	公民一体	景観の美しさはもちろんのこと、住宅、建物、街並み、公園、などまち全体が「みどりの中のまち」になると、土地の価値や快適性が高まります。	
30	12秒/ 6分20秒		市民のみなさん 企業 行政がひとつになって「みどりの中のまち」をつくり、育てることを目指しましょう。	
4. 普天間未来予想図				
31	14秒/ 6分34秒	最先端技術を活用したまちの価値向上	最先端技術を取り入れた「みどりの中のまち」は、例えば…屋上緑化や涼しい風を取り入れるなど、緑を活かした工夫をしたり、	
32	5秒/ 6分39秒		太陽光を電気に変え、省エネに貢献したり、	

No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
33	6 秒/ 6 分 45 秒		雨水や地下水を循環させ、涼しさを作り出したり…	
34	7 秒/ 6 分 52 秒		一年中、省エネで快適な暮らしを送ることができるまちです。	
35	21 秒/ 7 分 13 秒		まち全体で協力すれば、風力発電や太陽光パネルなどで創った電気を貯めておき、使う量にあわせて、電力を必要ところに回したり、台風や地震などの災害時には非常用電源に切り替えることもできます。	
36	14 秒/ 7 分 27 秒		このように、みんなで力を合わせて、まち全体に最先端技術を取り入れ、環境を守りながら、質の高い暮らしを実現していきましょう。	
5. エンディング				
37	29 秒/ 7 分 56 秒	まとめ 揺るぎない方向性の強調	普天間飛行場跡地にできる未来のまちは、自然・歴史・文化に支えられながら、その時々、技術や社会の変化を柔軟にとりいれる「ここだからこそできる」魅力あふれる街を目指しています。快適で、環境の豊かさが持続する平和な「みどりの中のまち」には世界の注目が集まります。	

No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
38	14秒/ 8分10秒	まちの価値の向上	世界を牽引し、質の高い暮らしを実現できるこの地で生まれ、育ち、学び、働く人々が、誇りと希望を持って暮らせるまち。	
39	7秒/ 8分17秒	締めコメント	そんな 普天間飛行場跡地の未来を これからもみんなで考えていきましょ う。	
40	3秒/ 8分20秒		いっぺーにふえ〜 でーびたん	
41	5秒/ 8分25秒			

4. ホームページの更新

本節では、今年度実施したホームページの更新内容について整理し、今後の展開について述べる。

(1) コンテンツの更新

PV、イベントの報告など新たなコンテンツを順次格納し、サイトのアップデートを行い、地権者、県民・市民に情報発信の充実を図った。

更新項目は、以下のとおりである。

【更新項目】

- ・ イベント開催報告（「こども霞が関見学デー」への出展）
- ・ 緑の中のまちづくり（海外先進事例視察報告）

(1) - 1 イベントの開催報告

8月にブース出展した国の府省庁が開催する「こども霞が関見学デー」の開催結果を会場風景、展示内容、来場者属性、アンケート集計結果を抜粋して、来場された方や初めて見る方にも概略がつかめるようにまとめた。

① イベント開催報告ページ



8月に国の府省庁が開催する「子ども霞が関見学デー」に出展したことを紹介

子ども霞が関見学デー
令和元年8月7日(水)~8月8日(木)

「子ども霞が関見学デー」とは、子どもたちを対象に業務説明や職場見学等を行うことにより、親子のふれあいを求め子どもたちが広く社会を知る体験活動の機会として国の府省庁が平成12年から開催しています。

たくさんの親子連れが来てくれたよ!

職場見学に訪れた親子連れがたくさん集まりました。

東京の地図に普天間飛行場をはじめてみたよ。普天間飛行場の大きさにビックリ!

将来どんなまちになってほしいかを書いたよ。

イメージCG(VR)で未来のまちを自由に歩いてみたよ。

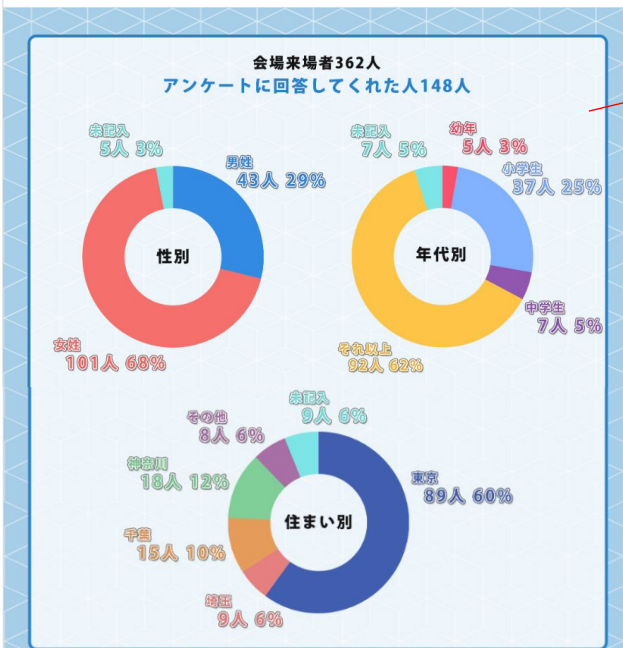
シアターで未来のまちのイメージを見たよ。

みなさんにご覧いただいたパネルはこちらでご覧いただけます。

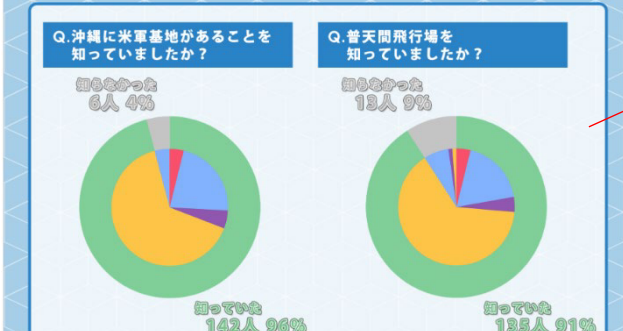
[パネルを見る](#)

「子ども霞が関見学デー」の概要を紹介
イベントの展示内容や会場の風景を写真で分かりやすく掲載

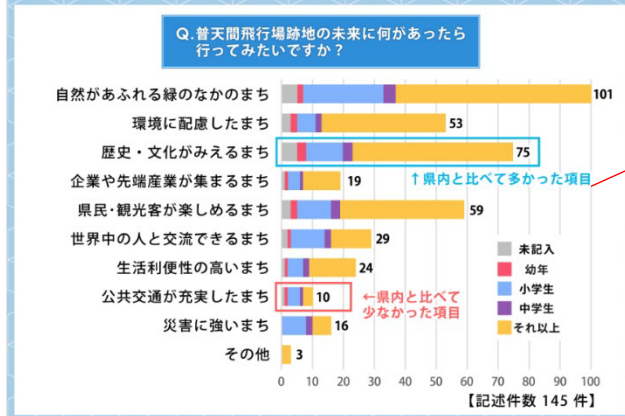
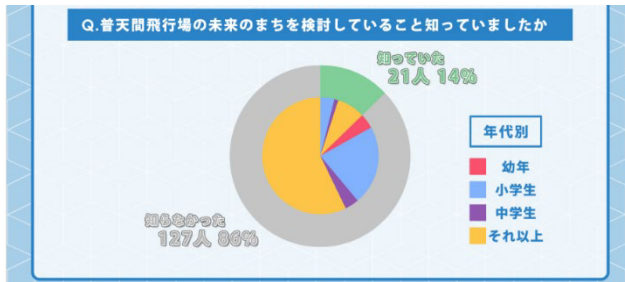
展示したパネルが閲覧可能なページのリンクを掲載



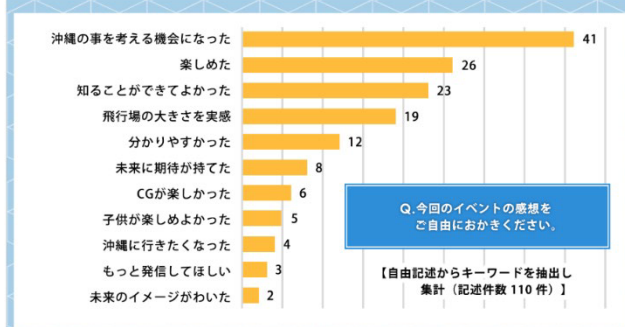
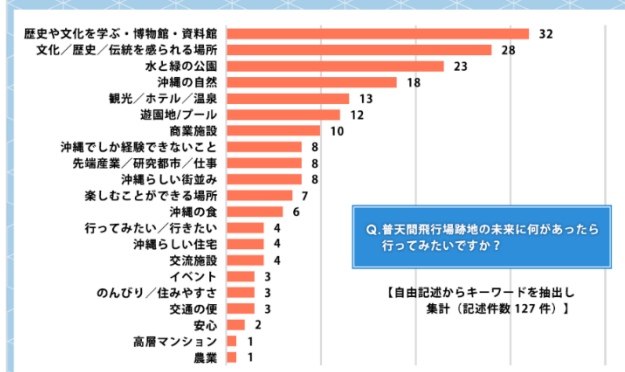
来場者の属性を性別、年代、居住地で紹介



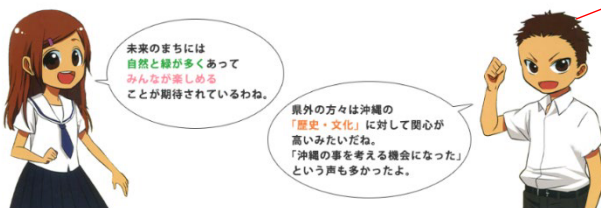
会場内で実施したアンケート調査（普天間飛行場の存在、跡地利用に向けた取組の認知）の結果を回答者の年代別に紹介



会場内で実施したアンケート調査（普天間飛行場跡地に期待すること、イベントの感想等）の結果を紹介



キャラクターのコメントにより、アンケート結果のまとめを紹介



過去のイベントはこちら

宜野湾市民図書館 開催イベント
トータルリビングショウ 開催イベント

② 展示パネルの掲載ページ



パネルをクリックすることで、拡大画像を表示



普天間飛行場パーツを自由に動かせるようにすることで、大きさを比較することが可能

赤枠で囲まれた「普天間飛行場」は、動かして大きさを比べることができます。



[普天間未来予想図2019 トップに戻る](#)

(1) - 2 緑の中のまちづくり (海外先進事例視察)

「緑の中のまちづくり」ページの中の新たなリンクボタンを設置し、海外先進事例の紹介ページを新設した。

今年度の視察先であるドイツのまちづくりについて、「豊かな自然環境と産業振興拠点が融合するまちづくり」と「医療・教育・産業振興拠点、リサーチパークやスマートシティ等が形成されているまちづくり」の視点で捉え、跡地利用計画で導入が求められる基盤整備、仕組み等について写真を中心に分かりやすく紹介するページとした。

「緑の中のまち」事例のひとつ。

ドイツ

沖縄県全体の産業振興をけん引する振興拠点ゾーンの形成に向け、2つのポイント

- 豊かな自然環境と産業振興拠点が融合
- 医療・教育・産業振興拠点・リサーチパークやスマートシティ等が形成

を「みどりのまちづくり」の先進国でみてきました。



●フライブルク市

★環境都市として世界的に名を上げている「グリーンシティ」

ヴォーバン地区

自然あふれる緑のあるまち

- 地形や既存の建物、あるいはすでに存在する緑生や樹木をできるかぎり保存し、そうした既存対象物を主軸とした住宅地開発を目指す。
- 後背の山地からの冷気を地区内に取り込むための「風の道」を複数配置。
- 「住宅地内の庭や公園、街路樹」「建物における屋上緑化や壁面緑化」「既存の緑生や地形を利用した住宅地周辺の緑地」などは、できるかぎり在来種を優先し、緑生の遷移をうまく活用することで、小さくても多様な自然を住宅地内に取り込むようにしている。
- 住宅地に降る雨水は、できる限り住宅地内の緑地に浸透させる配慮をし、平屋根には屋上緑化を義務化するなどして雨水が一度に住宅地から吐き出されないことを目指している。
- 住宅地内の緑化と既存の緑をつなぎ、緑のネットワークを形成。



基地時代の街路樹 風の道に整備された公園 雨水流化の調整池
多自然工法の小川 住宅地の緑地空間

道路や公共交通

- 「カーフリー（カーポートフリー）」をコンセプトに、公共交通の積極利用による車移動に頼らない地域づくりを推進。
- 居住者は、その土地に駐車場を設置することを禁じられている。居住者はその車を地区内数カ所に設置された立体駐車場に駐車し、家までは徒歩または自転車移動している。この道路は「遊びの道路」と指定されていて、日常的に子どもたちが遊ぶことが前提とされ、安全が最優先されている。
- 地区中央部に公共交通（LRT、バス）路線（地区内3駅）を整備し、中心市街地への移動を容易とする。



遊びの道路 共同駐車場 公共交通（LRT）

環境に配慮したまち

- ヴォーバン地区の住まいは、すべて集合住宅であり、間伐材や備のつかないような木材を森でそのままチップにし、エネルギー源として給湯や暖房に供給できるコージェネレーションシステム（※1）を導入している。市内の消費電力の半分を提供している。

※1 ガスタービンやディーゼルエンジンで発電する一方、その排気ガスの排熱を利用して給湯・空調などの熱需要をまかなうエネルギー効率運用システム。



コージェネーション施設

訪れた都市の位置を掲載

地区の概要について、写真を多く用いることで分かりやすく紹介

リーゼルフェルト地区

道路や公共交通

- 公共交通（LRT）を住宅開発より先行して実施し、公共交通利用を促すまちづくりを推進。（公共交通指向型（TOD）開発）
- 町の中心を横断する形で市道の路幅が新設され、400m間隔で停留場を設置することによって、住民は長くても400m歩くだけで停留場に達し、その後、市内中心部までは市道を使って15分で行けるので、自動車よりも短い時間で駅心へアクセスすることができる。



公共交通（LRT） コミュニティサイクル シェアカー



公共交通（LRT） 公共交通（バス）

自然あふれる緑のあるまち

- 地区内の大部分を景観保護地域に指定するとともに、住宅街区にも「風の道」や街区中央部に市民農園（クラインガルテン）等を配置。
- 景観保護地域内では、「森の幼稚園（自然の中での幼児教育を行う運動や団体の名称）」が活動。
- 住宅地内の緑化と既存の緑をつなぎ、緑のネットワークを形成。



多自然工法の小川 景観保護地域 森の幼稚園

ミュンヘン市の滞在型市民農園（クラインガルテン）

自然あふれる緑のあるまち

- ミュンヘン市では、滞在型市民農園（クラインガルテン）及び市民農園があり、有機栽培の野菜などの栽培から収穫まで市民が利用できる施設がある。



クラインガルテン クラインガルテン

オリンピックパーク

人が集まり、賑わうまち

- オリンピックパーク（Olympiapark）は、1972年のミュンヘンオリンピックの会場となったところで、スタジアム及びホールは、コンサートやイベント等で現在も使用されている。公園内には、本施設以外にもOlympia Eisportzentrum（スケート場）やOlympia Schwimmhalle（プール）などスポーツ関連の施設がある。



人工池及びスタジアム 展望塔・展望レストラン

「緑の中のまち」事例のひとつ。 **シンガポール**

「緑の中のまち」事例のひとつ。 **フォト・レポート オーストラリア**

「緑の中のまちづくり」 **ドイツ**

●ミュンヘン市

リーム地区

■景観公園

自然あふれる緑のあるまち

- リーム地区の南側には、200haの「景観公園」が整備されている。「風の道」が考慮され、この景観公園から地区内側の住宅地等に新鮮な空気が流れるようになっている。
- 2005年には、ここで「新しい都市地区の持続可能な発展」をテーマにThe National Garden Festivalが開催された。公園には、地下水を利用した10haの人工湖があり、市民の憩いの空間となっている。



景観公園 風の道 The National Garden Festival跡地

■新ミュンヘン国際見本市会場

人が集まり、賑わうまち

- 新ミュンヘン国際見本市会場では、年約30の国際的なメッセを開催しており、毎年90カ国以上より3万社以上の出展社及び約180カ国より200万人以上の来場者が参加している。
- 旧リーム空港跡地に建設されたこの見本市会場は、屋内ホールのみならず、屋外展示場にも水道・電気・通信などの最新のインフラを整備しており、ホール内は柱の無い構造で展示の自由度の高い幅広い展示スペースを確保している。



新ミュンヘン国際見本市会場 屋内展示場の外観 屋外展示場

環境に配慮したまち

- 建設地面積の約17%が緑化されており、雨水の再利用システム、ソーラー発電システム（ホール内1-4Fの屋根部分）、食料のデブリット制、回収ごみの選別プラントなど、環境に最大限に配慮した最新設備を備えている。



ゴミ回収場所

■選構を活用した公園・緑地

- リーム空港当時の管制塔を始め、複数の選構についてリノベーションや現状保存を実施。



飛行場選構（管制塔跡） 飛行場選構（管制塔跡） 清走路選構

(2) 今後の展開

今年度までに毎年コンテンツの更新を行いながら、中身の充実を図ってきた。現状のサイトで見られるコンテンツは以下のとおりである。

- ・ 動画で見る普天間未来予想図（中間取りまとめ）
- ・ 未来のまちVR（動画）
「中央エリア」「北側エリア」「南側エリア」
- ・ 緑の中のまちづくり（海外事例動画もあり）
- ・ 模型で見る昔の風景（字宜野湾・字神山まちなまーい体験報告含む）
- ・ ゆめのあるぎのわんみらい（児童生徒絵画コンクール受賞作ギャラリー）
- ・ 県民の声（地権者、市民の活動紹介、体験イベント紹介、絵画コンクール紹介、跡地利用計画提案コンペ受賞作紹介）
- ・ 中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想
- ・ 跡地利用に伴う経済効果
- ・ 関連リンク
- ・ 中間取りまとめ（英語版）



ホームページでは、中間取りまとめのポイントやこれまで作成してきた未来のまちイメージVR、さらには県民・市民の声等、跡地利用に関する様々な取組を分かりやすく発信している。

過年度に実施した体験イベントのアンケート結果等から、県民・市民が普天間飛行場跡地利用に関する取組内容について十分に認識しているとはいえない状況にあると考えられる。そのため、イベント開催時にホームページの情報を掲載したノベルティグッズを配布する等の広報活動を行うとともに、コンテンツの更なる充実を図っていくことで、県民・市民・地権者を中心に本ホームページの存在を周知する必要がある。

